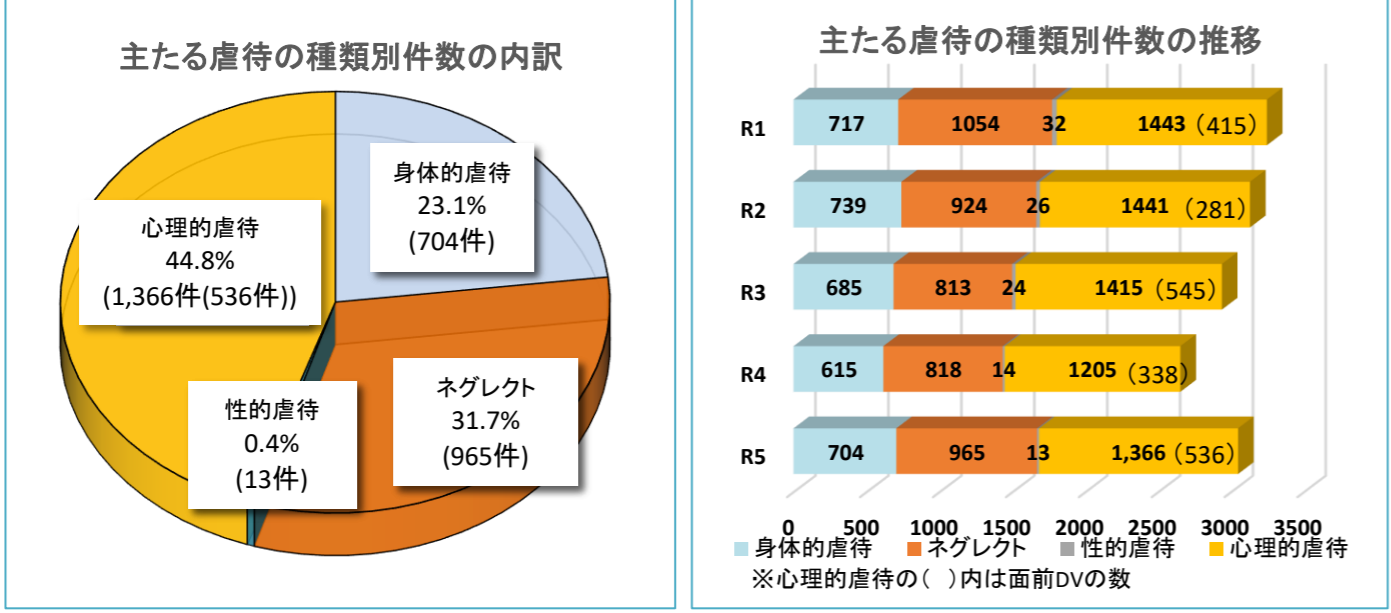
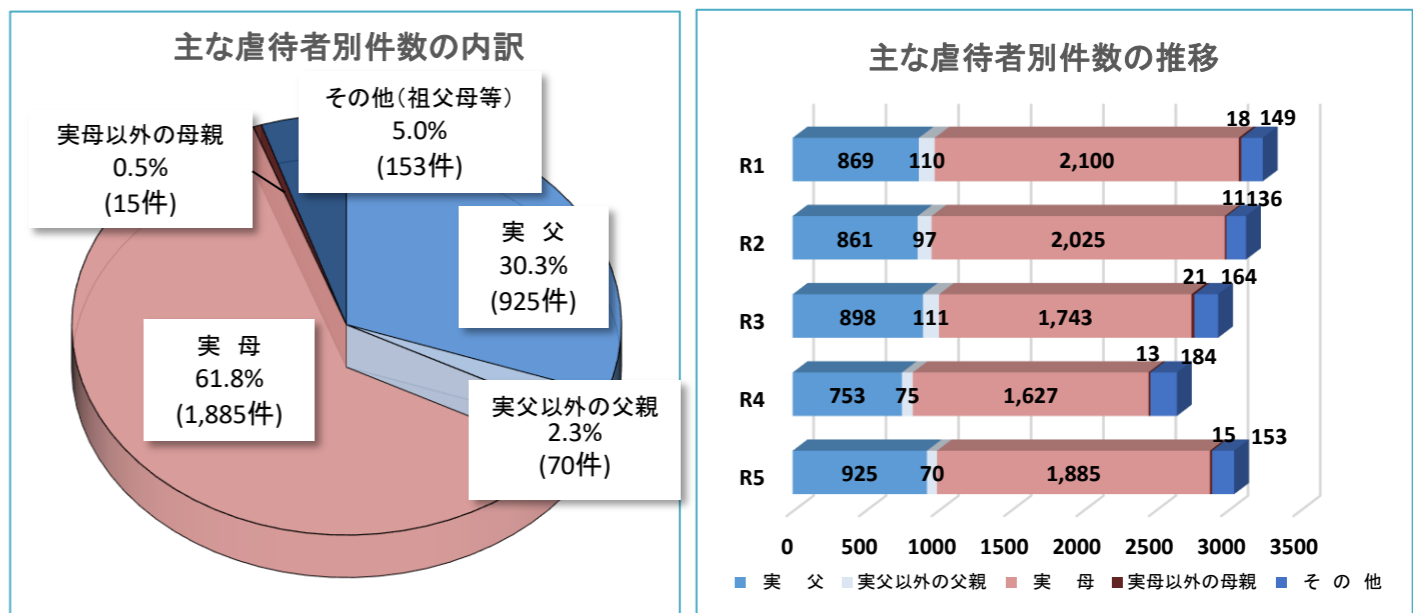


主たる虐待の種類



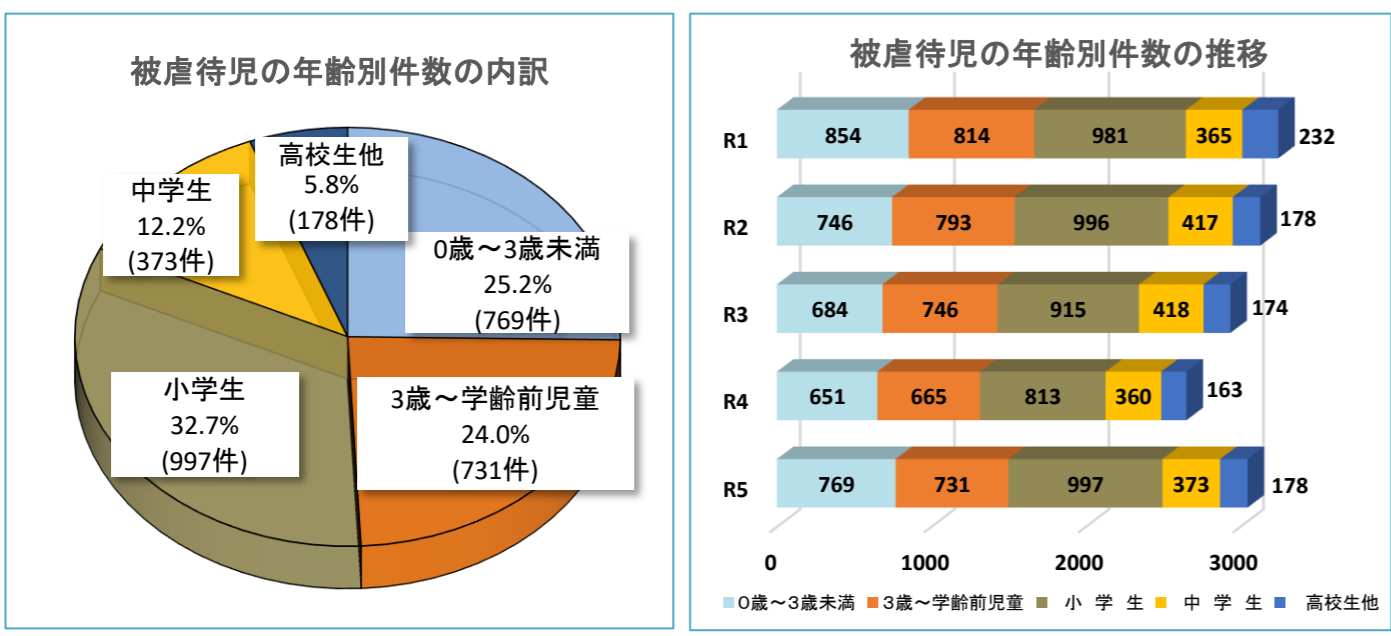
「心理的虐待」の件数が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。令和4年度と比較すると「心理的虐待」が161件増(13.4%増)、「ネグレクト」が147件増(18.0%増)、「身体的虐待」が89件増(14.5%増)、「性的虐待」が1件減(7.1%減)となった。「心理的虐待」が全体の約半数を占めており、その傾向は前年度と同様である。

主な虐待者



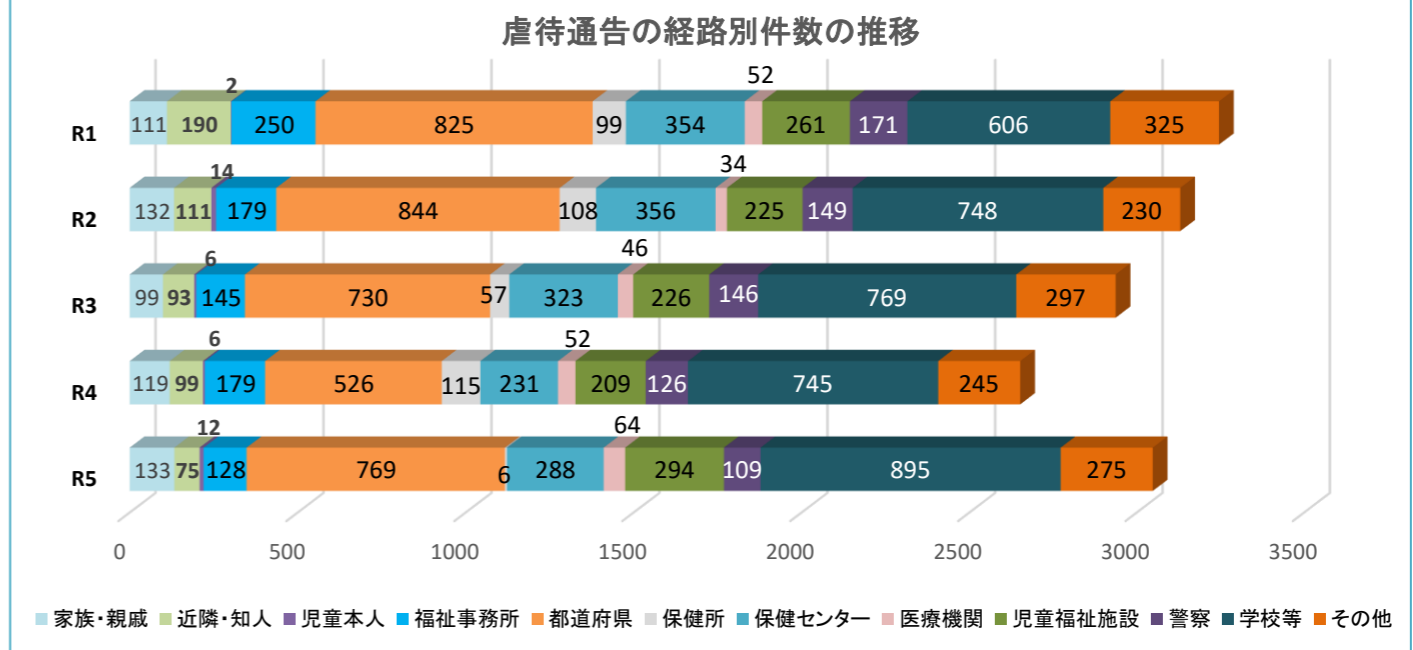
「実母」の件数が最も多く、「実父」と合わせた「実親」の件数が、全体の9割以上を占めている。前年度と比較すると、「実父」が172件増(22.8%増)、「実母」が258件増(15.9%増)となった一方、「その他(祖父母等)」が31件減(16.8%減)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

被虐待児の年齢



前年度と比較すると、「0歳～3歳未満」が118件増(18.1%増)、「3歳～学齢前児童」が66件増(9.9%増)、「小学生」が184件増(22.6%増)、「中学生」が13件増(3.6%増)、「高校生」が15件増(9.2%増)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

虐待通告の経路



「学校等」「都道府県」「児童福祉施設」の順に件数が多く、「都道府県」が243件増(46.2%増)、「児童福祉施設」(保育所、こども園等)が85件増(40.7%増)、「学校等」が150件増(20.1%増)となった。